令和７年度　第１回

平戸市総合戦略推進委員会

会　議　録

と　き：令和７年10月９日（木）10：15～12：00
ところ：平戸市役所３階会議室ＡＢＣ

開　催　日　時	令和７年10月９日（木）　10:15～12:00
開　催　場　所	平戸市役所３階大会議室
出　席　委　員 （50音順、敬称略）	赤木明子、井芹裕貴、柿野朋之、木田真弓、坂元洋一郎、都野川実穂、長尾顕龍、原田和寛、福田章、松山恵美、松山芳弘、山中兵惠（12名）
欠　席　委　員 （50音順、敬称略）	田口増巳、辻俊郎、松田隆也（３名）
事　務　局 （財務部企画課）	藤山企画課長、塚本参事兼政策企画班長、奥村主任主事
事業担当課	長寿介護課、商工物産課
その他出席者 （50音順、敬称略）	平松美保（江迎公共職業安定所）
次第 １　開会	
２　会長 あいさつ	坂元会長
３　議題 （１）人口動態について 委　員 委　員 事務局	（資料１に沿って事務局説明） ●質疑・意見等 合計特殊出生率の推移について全国や長崎県との比較は資料にあるが、県内の減少率で比較して平戸市は何位ぐらいなのか、平戸市がどういう状況にあるのか知りたい。 関連して出生数の推移について、年間比較はあるが、平戸市北部や度島など大まかな地域別での出生数の推移も確認したい。 次回会議にて準備する。 ※第２回委員会にて「資料１　追加資料」を配布

委　員	転出者数や死亡者数が令和４年、５年でかなり上がっているがどういった理由か。
事務局	明確な分析はできていないが、コロナが収束しつつある時期で、人流が活性化しだした年でもあることから、数値が全体的に上がっているものと認識している。
委　員	人口が減ってきている主な要因はどのように捉えているのか。全県的に減っているのはわかるが、平戸市においてはどのような背景があって減っているのか。
事務局	本市においては、若年層が就職・進学の際の転出が非常に多い。資料９ページのグラフのとおり、15-19 から 25-29、いわゆる 10 代後半から 20 代後半にかけて大変多く、転出後はなかなか戻ってきていない。 このような状況に対し、総合戦略では４つの基本目標の一つに定住・移住の促進を掲げ、若者の定住・移住対策に取り組んでいる。例えば企業誘致などで学校を出られた後の若年層の受け皿をしっかりとしたものしないといけないと考えている。 一方で、近年では中学校卒業後の高校進学の段階で、佐世保市や長崎市への子供の転出に合わせ、両親なども一緒に転出するパターンもある。子供の将来に向けて勉強など頑張っていただきたい思いはありながらも、進学と同時に家族一緒に転出となるのは悩ましいところ。
委　員	転出を抑えないといけないが、転入にも力を入れないといけない。資料８ページにあるように、（令和５年）転入者が増加しているのにＵターン実績が減っているのは相当な課題。
委　員	全国的な人口減少の中、平戸市の人口の減り方が全国や県ではどの程度か知りたい。

事務局	次回会議にて準備する。 ※第２回委員会にて「資料１　追加資料」を配布
委　員	資料７ページの転出者の推移では、減少しているものの約 900 人の転出がある。これは昨年度も話したが、転出理由などのアンケートで分析しないと、この現象は止められないと思う。
事務局	県が転入・転出のアンケートを実施しているため、次回会議にて提出する。資料が不足しており申し訳ない。 ※第２回委員会にて「資料１　追加資料」を配布
委　員	資料 14 ページを見ると、20 代の転入者は 100 人を超えている。他の年代では 100 人を超えることはあまりないと思う。前向きなところであるので要因がわかればと思う。
委　員	資料 14 ページの転入・転出では、学校の先生など、一定数、常に流動的に出入りがあると思われる。 現実として転入・転出では、平戸で生まれ育った人が中心に転出しているのか、転入がどのような地域からあり、50 代などの一定の年齢になると戻ってきているのか、あるいは仕事の都合なのかなど分析する必要があるのではないか。
事務局	転入・転出者の出身地など詳細まで分析できるか難しいところがある。
委　員	移住定住の現在の取り組みと新たな取り組みは。
事務局	移住・定住政策班において、ふるさと納税と移住定住を対応しており、正規職員３人、移住コーディネーター１人を配置。このうち、正規職員１人と移住コーディネーター１人が主に移住定住を担当している。

	具体的には、対面、オンラインでの移住相談のほか、相談会がある場合は東京や福岡などでも対応している。また、引っ越し費用や空き家活用の住宅改修費用など移住定住に係る補助金にも取り組んでいる。 昨年、委員のご指摘を踏まえ、他市への視察も行っており、結果として、補助メニューの拡充よりも相談があった際の対応体制の充実を図ることがよいのではないかと思われたので、今後の具体的な取り組みについてはそれらを踏まえ調整しているところ。
委　員	平戸に来られた方が、なぜ平戸を選んだのかがキーワードになる。その部分で、もう少し深堀りして事業を展開していただきたい。
事務局	移住者へのアンケート協力などを行っているが、ご意見の深堀りの観点は必要だと思うため、改めて情報整理できたらご報告する。
（２）管内の雇用の情勢について	（資料２に沿って江迎公共職業安定所説明） ●質疑・意見等
委　員	平戸で求人がある職種はどのような業種が多いか。
江迎公共職業安定所	手持ち資料がないが、建設業が多い印象。宿泊業も若干ある。 また、農業関係も松浦市と比較すると多いように思える。松浦市は製造関係の求人が多い。
委　員	高校生の就職について、江迎公共職業安定所と県立学校３校はどのような連携をしているのか。
江迎公共職業安定所	ハローワークと学校は取扱いルール的にも連携するようになっている。高校生は一般の求職者と異なり、求人をいつでも出してよいわけでなく、７月から公開、それも一般公開でなく、学校とハローワーク

	だけが入れるようになっている。９月５日から応募開始、９月 16 日から選考ということで、ルールが決まっており、ハローワークと学校が連携して行うことになる。 　また、就職支援ナビゲーターがおり、学校訪問し、職業相談のほか、先生との連携も密に行っている。 　若年者を取り巻く状況はここ２、３年でも大きく変わっており、困りごと相談など様々対応している。 　早い生徒が９月末時点で就職内定をもらう中、決まらない生徒が 10 月、11 月となってくると本人も家族も焦りが出るが、ハローワークに繋いでもらうことで、積極的に支援し、「卒業までには何か就職が決まる」という形の連携を強くとっている。
委　員	平戸の高校を卒業後、専門学校や大学に進学。進学後、平戸に帰ってくることがある際に、「こういう事業所がある」といったアプローチができないか。
江迎公共職業安定所	学校経由ではあまりできないかもしれないが、ハローワークを活用いただくことは当然可能。また、卒業する高校３年生向けには、卒業後に困ったとき用の冊子なども作られており、いろいろなサポート部署の案内なども行っている。
事務局	平戸を出た子ども達にどのように情報を伝えるかは難しいことであるが、成人式では、渡される資料の中に就職関係や企業の紹介資料なども様々入れられており、結構なボリュームがあったと思う。
委　員	大学の就職課のようなところでの情報提供も一つの手であるが、大学だと一人当たりに対する情報量も多く、学生自身も判断が難しい。事務局が言うように、成人式なり、そのような機会で「求人情報がハローワークにあるよ」と伝えることが一番効率的かと思う。
委　員	求人として建設業が多いと言われていたが、これは男性の就職が多

	いという捉え方か。
江迎公共職業安定所	男女雇用機会均等とはいえ、体力を使う仕事内容的には建設業は男性が多い。しかし、２年ほど前の佐世保市の状況からすると建設企業は女性も積極的に採用する傾向が強くなった。 全国的に建設、運輸、経費、介護、医療、保育、この６業種は特に人材不足が顕著というふうに言われている。その一つである建設が平戸では多く求人があるというところで、福利厚生を含め女性でも働けるような合理化を進めるために、コンサルなどの外部の知恵なども取り入れ、“人が入ってこれる、戻ってこれる”ように変えていってほしいと思う。
委　員	医療・福祉に関する平戸の求人は多いか。
江迎公共職業安定所	ハローワーク登録者が少ないのか、実務経験がある方などはすぐに採用されるため、登録を上回る求人が出ており、医療や介護の現場では人が集まらない状況が続いている。これは平戸に限った話ではない。
委　員	高校生にとってハローワークは近しい存在ではないと思うため、保護者に宣伝することも一つの手。
委　員	ハローワークがどうという話ではなく、事業者側が“求人出しても…”と諦めの声があるのではと思うが。
江迎公共職業安定所	コロナの影響もあり、オンライン化が一気に進んだ。全国のハローワークが「求人マイページ」を使用しており、求人については当ページから申し込みいただくよう勧奨している。しかし、どうしてもオンライン化が進んでいない企業もあり、ハローワークに求人を申し込むこと自体ハードルが高く感じられている面があるため、オンライン化が進んでいない、あるいは初めて求人を出している企業には出向き、

	丁寧な説明や紙ベースでの受付など、求人確保に方針転換している。
委　員	令和６年度のハローワーク江迎管内の有効求人倍率は 1.0 を切っているということだったが、平戸市はずっと 1.0 を上回っている。実際下がっているのは佐世保市管内かと思うが、平戸は特に支障ないと捉えてよいのか。
江迎公共職業安定所	確かに他市と比較すれば平戸市は高いが、求人がたくさんあるので、就職件数がもっと上がってよいと思う。決して楽観はできない。
（３）平戸市総合戦略に係る令和６年度事業の実施状況等について	【基本目標１　雇用の促進～しごとをふやすプロジェクト～】 （事務局説明） ●質疑・意見等
委　員	資料８ページにおける支援先中小企業の業種の製造業はどういったものか。
商工物産課	水産加工、造船の２件支援を行った。
委　員	基準値や数値目標はどのように設定しているのか。
事務局	基準値は各担当部署にて平成 30 年度実績を基に設定しており、第２期総合戦略における令和６年度最終目標値は、例えばハローワークの公表値や統計の数値を使用したりと目標によって様々である。 恐らく昨年度においても、現実に近い目標設定をするようにとのご指摘をいただいていたが、担当部署が各種数字を拾いながら将来的な目標を設定しているところ。
委　員	資料８ページ上部の令和６年度決算額では前年度対比 500 万円の減になっている理由は。中小企業が厳しい状況にある中、設備投資が減

	っているのが気になる。その辺りの支援はもう少しあってもよいのでは。資料９ページの令和６年度決算、令和７年度予算も同様。
商工物産課	資料８ページの中小企業に対する支援だが、補助金は企業の経営力強化につなげるものとしている。 令和元年からのコロナ流行期頃、売り上げが伸びず会社経営が厳しいだろうということで、４件ほど支援する計画として 500～2,000 万円の予算設定をした。 実際に令和３年には４件の製造業から申請を受けたが、設備投資に対する支援であるため、企業としては大きい投資になることから、事業所として１度だけの活用になっている。 結果的に近年では申請が少なくなり、今年の実績も現時点で０件であるが、委員のご意見にもあるとおり支援の必要性と設備投資の時期なども考慮し４件程度を予算化している。 また、資料９ページの件についても、コロナの収束後に補助を活用する事業者は増えてきたものの、近年は落ち着いてきたところがある。
委　員	令和７年度も予算を確保している中、今は企業として厳しい状況でもあり、利用しないということはないと思うため、制度の周知を十分にしていただきたい。
委　員	資料 12 ページ創業支援対策事業の昨年度補助の業種は何か。また、アフターフォローは創業後、どのようにしているのか。
商工物産課	美容室など、自分のお店を出したいという方の開業を支援した。アフターフォローについては、創業者の相談会があるが、中小企業診断士の指示を得ている。 また、資料にもあるとおり、信用保証制度があり、運転資金のサポートをしている状況。

委　員	企業側としては、人を雇用する、または雇用を維持するのが大変厳しい状況。賃金を上げる対応が資金繰り的に難しい中、価格転換がなかなかできないでいる。 今後、商工物産課の補助制度の該当要件として、最低賃金に対応したら申し込めるなどの条件となる項目を追加してはどうか。
商工物産課	ご意見を参考に事業所の経営安定化や設備投資を含め支援のあり方を検討していきたい。
委　員	設備投資はデジタルに関しても組み込んでいただき、国や県のメニューがあれば参考にしてもらいたい。
委　員	資料 11 ページの「方策の概要」で、空き店舗等の活用促進とあるが具体的にどこか。
商工物産課	南部地区の飲食店における実績があった。
委　員	資料１ページの数値目標「市内事業所の従業員数」では令和２年度から６年度にかけて増減が生じている。
商工物産課	雇用保険の加入状況から算出した結果となっている。
委　員	他に意見はないようなので、本日の議事を終了する。
(４)その他	(事務局より次回会議の事務連絡)
４　閉会	(藤山企画課長あいさつ)